

# シャットネラ アンティーカ(ラフィド藻)

(*Chattonella antiqua*)

動画

ゆっくりと回転しながら泳ぐ

鞭毛の出口

鞭毛

遊泳方向

尾状に尖る

葉緑体(顆粒状)

類似種1  
シャットネラ マリーナ  
◆ 小さい(30~50µm)  
◆ 後端はやや尖るが短い

短い

類似種2  
シャットネラ オバータ  
◆ 葉緑体は細胞の中心部に集中し、細胞の周辺部の色がぬける(液胞がある)

液胞

類似種3  
ユーグレナ藻  
◆ 葉緑体が緑色

緑色

**大きさ** 長さ50~130µm、幅30~50µm

**形態** 色は黄褐色~茶褐色。シャットネラ属の中で最も大きい。細胞は紡錘形で、前方は幅広く、後方に向かって細くなり、後端は尾状に尖る(上の写真よりも、さらに長く尖ることもある)。ほぼ同じ長さの鞭毛が2本あり、前方と後方に伸びるが、後方に伸びる鞭毛は観察しづらい。顆粒状の葉緑体が、細胞全体に放射状に配列する。細胞の大きさや形が変化するため、類似種(特に、シャットネラ マリーナ(*Chattonella marina*))との区別が難しい場合がある。

**動き** ゆっくりと回転しながら泳ぐ。

**旧名称** ヘミユートレプティア アンティーカ(*Hemieutreptia antiqua*)

**漁業への影響**：数百細胞/mlを超えると魚介類のへい死を引き起こす危険性がある。魚類の他に、巻貝(アワビ、サザエなど)、二枚貝(アコヤガイ、カキ、アカガイなど)、甲殻類(カニ、エビなど)、軟体動物(タコなど)などにもへい死事例がある。魚類以外の生物に対する毒性は良くわかっておらず、へい死原因には赤潮にともなう貧酸素化が影響している可能性もあるが、魚類と同様の注意が必要である。

**漁業被害**：昭和52年に熊野灘沿岸で赤潮が発生し、養殖魚の他、アワビ、サザエなどの巻貝にも被害が発生。

**発生海域**：伊勢湾~熊野灘沿岸

**発生時期**：5~7月頃(夏季中心)